

☆「授業は英語で行うことを基本とする」とは？

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

4 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。

<学習指導要領解説のポイント>

目的

- ◆生徒が、授業の中で、英語に触れたり英語でコミュニケーションを行ったりする機会を充実する。
- ◆生徒が、英語を英語のまま理解したり表現したりすることに慣れるような指導の充実を図る。

◎各科目の「特質」→ 言語に関する技能そのものの習得を目的

授業の中心 = 英語による言語活動を行うこと

教師が授業を英語で行う

生徒も授業の中でできるだけ多く英語を使用する

【英語による指導の例】

- 指導内容の説明
- 生徒が行う言語活動の指示や手本の提示
- 生徒の理解や活動が円滑に進むような手助け
- 生徒の活動への励まし・講評

【英語による言語活動の例】

- ◆読む活動
 - 理解の程度に応じた英語で書かれた文章を多く読み、訳読によらず、概要や要点を捉える。
- ◆書く活動
 - 読んだ英文を英語で要約したり、推敲を繰り返しながら主題に沿って文章を書く。
 - 伝えたい内容を十分整理し、知っている語や表現を用いて、工夫して書く。

留意すべきこと

◇「授業は英語で行うことを基本とする」ことについて

- ・生徒の生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業を英語で行うことの重要性を強調するものである。
- ・授業の全てを必ず英語で行わなければならないということを意味するものではない。
- ・英語による言語活動を行うことが授業の中心となっていれば、必要に応じて、日本語を交えて授業を行うことも考えられる。

◇授業の中心について

- ・授業においては、訳読や和文英訳、文法指導が中心とならない。

◇指導計画について

- ・読む活動や書く活動に加え、聞く活動や話す活動もバランスよく取り入れる。

◇英語による教師の指導について

- ・説明や生徒の理解の手助けを行う際も、英文の内容を簡単な英文で言い換えるなどする。
- ・教師の説明や指示を理解できていない生徒がいて、日本語を交えた指導を行う場合であっても、「授業は英語で行うことを基本とする」という本規定の趣旨を踏まえ、生徒が英語の使用に慣れるような指導の充実を図る。

◇文法について

- ・文法は、英語で行う言語活動と効果的に関連付けて指導するよう配慮する。
- ・言語活動を行うことが授業の中心となっていれば、文法の説明などは日本語を交えて行うことも考えられる。

◇生徒の理解の程度に応じた英語について

- ・語句の選択、発話の速さなどについて、十分配慮する。
- ・生徒の英語によるコミュニケーション能力に懸念がある場合は、教師は、生徒の理解の状況を把握するように努めながら、簡単な英語を用いてゆっくり話す。

◇音声で行うコミュニケーションの指導について

- ・限られた時間の中で、意味の伝達を行うことが重要であり、生徒が、流れを大切にして発話したり会話したりするよう指導する。
- ・生徒がコミュニケーションを積極的に行おうとする態度を損なわないよう配慮しつつ、意味が伝わらないおそれがあるものは正しく言い換えるといった指導を行う。

◇文字で行うコミュニケーションの指導について

- ・生徒が書いた英語に誤りや曖昧さがあつた場合は、それを正確で適切なものとするよう、生徒の文法や語彙を運用する能力を高めるとともに、きめ細かな指導を行う。